

- \* 「交わりと一致による喜び」。クリスチャンの「喜び」は「主にある喜び」であり、それはいつでもどこでも経験する喜びである。「主にある喜び」の元は一人一人が主を信じてキリストと一体になって生きるところにある。しかし、クリスチャンがお互いに交わりをし、一致することによって高められ、何倍もの喜びにあずかることができる。ピリピ人への手紙を始めパウロの手紙は、すべて、自分と教会が同じ喜びを味わいたい、クリスチャン同士が愛を持って一緒に喜んで欲しい、さらには世界のクリスチャンが喜びを共にしてほしいという願いが込められている。
- \* 「あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。」パウロは今、獄中にあり、今後、迫害によって殉教するかもしれない状況にある。もしそうなっても、いっしょに喜んで欲しいという。主の御名のために死ぬのであればそれは喜びであるはずである。逆に、日本の多くの教会が過去の戦争に加担したように、主が喜ばれない言動の中には喜びはない。
- \* 教会の2つの大目的である礼拝と宣教。一致してところを合わせて主を礼拝するところに「一緒に喜ぶ」基本がある。また、福音伝道に共に携わるところに「一緒に喜ぶ」妙味がある。「一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」（ヨハネ12：24）イエス・キリストの十字架と復活を信じれば私たちの罪が赦され、永遠のいのちが与えられる、という福音。これを自分だけのものとせずに、人々に伝える、それも一緒に力を合わせて働くことが私たちに課せられた使命であると同時に、大きな喜びとなるのである。